

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1278300098
法人名	グループホーム リブ丸山
事業所名	社会福祉法人 柚子の会
所在地	千葉県南房総市川谷302-8 (電話) 0470-47-2171

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成20年3月1日

【情報提供票より】(19年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	0人
常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青木産婦人科医院、鴨川国保病院
---------	-----------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々に囲まれた自然の中に「グループホームリブ丸山」がある。施設からの見晴らしも良く、ゆっくりくつろげる空間になっている。また、入居者の好みや季節に合わせた花や作品等が装飾されており、温かみを感じられる。同法人が経営する特別養護老人ホームが隣設しており、協力を得ながら幅広いサービス提供と柔軟な支援を行っている。職員は入居者一人ひとりのペース及び希望に合わせた支援を行っており、その人らしい生活ができるように努めている。また、生命の安全を第一と考え、日々の生活における安全配慮や研修等によるサービスの質の向上にも努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価では主な改善項目はなかったが、評価結果を職員に周知することによりサービスの質の向上に繋げている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価の記入を行った上で、管理者が作成している。自己評価での気づきを大切にしており、会議等で具体的な改善方法を検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域の関係者を構成員として会議を開催し、施設の活動や外部評価の報告等を行っている。今後は2ヶ月に1回を目標に開催する予定であり、更なる運営の向上と地域理解の促進を目指している。焼き芋会を兼ねて会議が開催されており、事業所独自の工夫がなされている。今後も、より多くの方に参加して頂けるような取り組みを検討している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>相談・苦情窓口を設置しており、家族の来訪時に意見や要望を確認し、その都度迅速な対応を行っている。また、意見や要望を会議の議題にし、職員の情報共有、周知に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方々とは散歩時に声をかけたり、挨拶を交わす関係づくりが出来ており、ご好意により野菜を頂くこともある。併設している特別養護老人ホームでは、地域の幼稚園児・小学生・ボランティア等の慰問や地域との交流行事が行われており、施設の職員及び入居者も一緒に参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	法人の作成した「精神的な豊かさ、満足度を基礎とした、尊厳と自立の確立」と銘打った理念を掲げ、日々のサービスの取り組みへ活かしている。法人の理念ではあるが、事業所独自の目標、方針、課題を作成し、サービスの質の向上へ努めている。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	理念を玄関の目に付くところへ掲示し、職員は日々、サービスを意識しながらサービスを提供している。さらに、月1回の会議で理念に基づいたサービスの提供について話し合い、ケース検討を行う事で職員の意識を高めている。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	近所の方々とは散歩時に声をかけたり、挨拶を交わす関係づくりが出来ており、ご好意により野菜を頂くこともある。併設している特別養護老人ホームでは、地域の幼稚園児・小学生・ボランティア等の慰問や地域との交流行事が行われており、施設の職員及び入居者も一緒に参加している。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	職員全員で自己評価の記入を行った上で、管理者が作成している。自己評価での気付きを大切にしており、会議等で具体的な改善方法を検討している。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	地域包括支援センター職員、民生委員、区長、入居者、家族、施設職員を構成員として会議を開催し、施設の活動や外部評価の報告等を行っている。現在までの開催回数は1回であるが、今後は2ヶ月に1回を目標に開催する予定であり、更なる運営の向上と地域理解の促進を目指している。1回目の会議は、焼き芋会を兼ねて開催されており、なるべく多くの方に参加していただけるような工夫がなされている。今後も、より多くの方に参加して頂けるような取り組みを検討している。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

【千葉県】グループホーム リブ丸山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターとは、施設運営や入居者に関する相談等を通して日頃から連携を図っている。また、市が主催する研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季刊誌を年3回発行し、施設での活動や生活状況を伝えている。また、面会時に日々の暮らしぶりや金銭管理の内容を家族に伝えていると共に、生活状況が変化した時や、病院の受診をした際には電話で報告を行っている。遠方の家族が多いので、今後は定期的なお便りの発行を検討している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設置しており、家族の来訪時に意見や要望を確認し、その都度迅速な対応を行っている。また、意見や要望を会議の議題にし、職員の情報共有、周知に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時は入居者及び家族に説明を行い、理解を得られるように努めている。また、入職時には、季刊誌に写真入で掲載したり、家族の来訪時に挨拶をするなどをしてしている。異動当初は、入居者の個々の性格を把握した上で無理に声を掛けて慣れるのではなく、ストレスにならないよう自然に馴染んでいくように心がけている。また、馴染みの職員と一緒に作業し馴染んでいく等、異動のダメージを軽減させる工夫を取っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び内部研修を随時行っており、職員の質の向上に努めている。外部研修に関しては、職員の希望も取り入れた上で参加を促していると共に、多くの職員に研修の機会を与えている。研修内容については会議での報告や資料閲覧を通して、情報の共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鴨川市の病院の認知症センターを中心として行われているつどいの会に参加しており、館山市・鴨川市・南房総市の同業者との交流を図っている。つどいの会では講演会や意見交換等が行われており、相互の質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を通して、施設の雰囲気に慣れてもらうように配慮している。入居に至るまでは同じ職員が時間をかけて関わる事により安心感を与えている。最初は家族にも協力をお願いし、できるだけ多く面会をしてもらっている。また、馴染みの家具の持込んで頂くことにより安心した生活が出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、片付け、洗濯等を共に行い、共同生活の中での支援を行っている。職員は入居者に対する尊敬を忘れず、植物の育て方、昔の知恵、習慣、教養や家事の仕方を教わり共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを家族に記入してもらっており、本人の生活状況や家族及び本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者及び入居者担当でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、他の職員の意見も取り入れながら現状に則した計画の作成に努めている。作成後は家族の了承を得た上で職員全員に周知している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行い、介護計画の見直しを行なっている。また、生活状況の変化によって見直しが必要と思われるときは、家族と相談の上、随時介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣設している特別養護老人ホームとの協同により定期的に行事を開催している。また、機械浴槽・スペース等の共同使用や看護師や栄養士への相談等で連携を図り、入居者の希望に応じた多機能性が発揮されている。その他、いきつけの美容院やかかりつけ医への受診等の付き添いを職員が行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協立病院及び希望の医療機関の受診支援を職員が中心となって行っている。また、定期的な往診や特別養護老人ホームの看護師の協力により、適切な健康管理を行っている。診療の内容については随時家族に報告されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応についての意思表明書を作成しており、本人及び家族の希望を確認している。終末期においては医師や家族と相談した上で意向に沿った支援を行っている。また、担当する職員にも十分な対応ができるように教育している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所で保管し、保護に取り組んでいる。入居者に対しては、その人に合わせた名前の呼び方、言葉遣いを意識し、申し送り等の際には入居者に配慮した連絡方法で入居者を尊重している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は特に決めておらず、本人のペースで自由に過ごしてもらっている。また、食事の時間や場所も自由に決めてもらっている。利用者からの要望があればドライブなど外出等の支援も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、調理、献立作りを共同で行っていると共に、入居者の嗜好や能力に応じた食事提供が適切になされている。食事の際の雰囲気は和やかで一人ひとりが食事を楽しんでいる。また、定期的に外食会を実施しており、普段食べられないものを楽しみながら食べることにより、食に対する意識の活性化を図っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて入浴支援を行っており、週2回以上の入浴を実施している。特に時間に制限はなく、個人のペースで入浴が可能な体制である。身体状況に応じて隣設の特別養護老人ホームの機械浴槽を利用も可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活における家事は共同で行い、役割を持って生き生きと毎日を過ごされている。決められたレクリエーションは行っておらず、自然に各々がやりたい活動を行っている。雨の日など外出できない際は、廊下にあるアルバムを見ながら会話に花を咲かせたり、利用者が好む絵や写真を掲示したりと気晴らしにつながる工夫を実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外食会、外出会を企画・実施していると共に、日々の中では希望に応じての散歩、ドライブを実施している。また、隣設している特別養護老人ホームの車輛を使用して遠出することも可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な生活を支援している。玄関のドアにベルを設置することにより職員の目が行き届くようになっている。また、外に出た入居者に対しては、適切な対応により自由を束縛しないよう努めている。居室の鍵は設置されていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと隣設の特別養護老人ホームと一緒に年2回の避難訓練を行っている。また、月に1回の心肺蘇生の研修を行っている。隣設の特別養護老人ホームとは緊急時の協力体制が構築されているが、地域との協力体制については、今後の運営推進会議で話し合っていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣設の特別養護老人ホームの栄養士の協力のもと栄養バランスのとれた食事提供がなされている。食事の摂取量及び必要に応じて水分摂取量が記録管理されており、摂取が足りない方については捕食を提供し適切な栄養管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、手すりの設置等も適切になされている。車椅子で対応できるトイレや洗面台も配置されている。エレベーターが設置されていると共に、階段には目印をかねた滑り止めが張られ、安全面での配慮もなされている。玄関にはソファが配置されており、ゆっくりつるげる空間になっている。廊下には入居者の作品等が飾られ、四季を感じられるよう工夫されている。また、入居者の好みを考えた絵や写真等を掲示している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により自由に馴染みのものを持ち込むことが可能であり、居心地よく生活が出来るように配慮されている。床はフローリングになっているが、希望によりじゅうたんや畳を敷くことも可能である。全居室にエアコンが設置してあり空調も適切に行われている。		